

# 中経論壇

経営支援NPOクラブ副理事長

関口 清



これまでプロ棋士の先生方の海外での普及活動は、いろいろと紹介されてきたが、われわれアマの囲碁愛好家も国際親善に努めている。主としてラテンアメリカとの交流を図るNPO法人「囲碁国際交流の会」があり、毎年現地の囲碁協会と提携し囲碁交流を行っている。

これまでにキューバ8回、メキシコ4回をはじめ、中南米の主要な国々を訪問し、親善を深めてきた。またキュー

バ、チリなどからの囲碁留学生も受け入れ、育成も行っている。私もその会の一員として参加し、直近では、メキシコ、キューバを訪れた。特にメキシコは、過去に仕事で2度にわたり12年間生活した土地だけに、懐かしさはひととおであった。当時私が指導した若き学生キンテロ氏は、40年後の今は大学教授として囲碁を指導する立場であり、彼の再会は感無量であった。

なおキンテロ氏は、メキシコ代表として世界アマ選手権で来口したこともある。私自身が首領を取った国際親善は、タイ囲碁協会との通算11回にわたる、毎年冬のバ

## 趣味を通じた国際親善

ンコクでの囲碁大会である。この大会には20〜30人の日本人囲碁愛好家が参加しているが、関西棋院の村岡茂之9段と奥様の村岡美香4段にも同行していただき、現地での指導も実施していただいている。日本人との対局のみでなく、プロ棋士の指導も受けられるとあって、先方には感謝されている。タイの若者も高段者レベルは非常に強くなり、日本の代表クラスレベルの人が多く出てきた。ハードな大会もある。欧州囲碁コンGRESSには、連続15回参加している。毎年欧州での開催国を

えてのこの大会は、1日1局を4〜5時間かけてじっくり打つ大会で、日本での持ち時間45分のサドンデスとは異なる。このようなゆとりとした、熟考できる大会は他に例を見ないことから、日本人の愛好家は多い。今年の夏もイタリア・ピサの大会に参加する予定で、各国囲碁仲間との再会を楽しみにしている。

私は、現役時代に名古屋で数年過ごしたことがある。拙文をつづりながら、1998年8月、「中部官財人囲碁挑戦シリーズ」で、日本棋院中部総本部の堀田誠司4段(現5段)と私の三子局対戦が、中部経済新聞に8回にわたって掲載されたことを思い起した。名古屋には懐かしい思い出があるのだ。

囲碁人口は世界に広く、囲碁を通しての国際親善は大きな広がりを見せる。今後も元気なうちは、趣味を生かして国際親善に努めたいと思っている。

# 世界に広がる囲碁交流